



Title: 図書館総合展のヨコハマへ

11月5日～7日の第16回図書館総合展に行ってきました。

図書館総合展とは何か。主催者によると「公共・大学・機関・企業・大学・学校等すべての館種の図書館についての、最新技術・サービス・トレンド・学術情報を紹介する、図書館界最大の展示会」とのことです。会場は横浜市みなとみらい地区にある、世界最大級の複合コンベンションセンターであるパシフィコ横浜。展示ホールではブース展示やポスターセッションにイベントいろいろ、会議室等では3日間で72のフォーラムが開催されました。ひとりでは5分の1も見きれない規模です。

3日間の入場者数は3万人超。大館の人は樹海ドームでの10万人とかの数字に慣らされているのでそれほどの数字とは思えないかも知れませんが、日本中から図書館員や学生・研究者が実数で1日1万人も集まるって、すごい数字なんです。参加したフォーラムの感想などを述べたいところですが、キリのない字数になりそうだし、そもそも資料の整理もついていないのでやめといて、大館に関係するトピックをひとつだけ。

❖ 中津川の図書館

展示会場のポスターセッションは、タタミ1枚分のパネルを使って研究発表や施設紹介などを行うものですが、その中で最大の3コマを使って手づくり感満載の展示を行っていたのが「なかつがわ図書館くらぶ」です。

岐阜県南西部の中津川市は、旧中山道沿いの人口8万2千人ほどのまちで、島崎藤村の生まれ故郷。市内には馬籠宿があり、リニア新幹線の駅も予定されています。この中津川で新図書館建設が平成23年に着工しましたが、建設反対の声も多く政争の末に出直し選挙で建設反対派の市長が当選し24年5月に工事は中止されています。この間、市民と図書館を結ぶ役割を果たそうと設立されたボランティア団体が図書館くらぶ。館内展示や図書館まつりの開催、会員の大工さんは手づくりのテーブル・イスを作るは、図書館見学を自主的に行うはで、正しく図書館の善きパートナーとなっています。総合展の会場にも図書館員とくらぶ会員が数多く控え、パネルの説明をすることには熱気がこもっていました。

新図書館建設にあたっては館長を全国から公募し、23年7月に着任したのが大館市出身の小林光代氏。鳳鳴高校や桂高校の学校司書を長く務めたベテランです。着任早々に新図書館はご破算になるし、関係各位との確執もあったようですが、持ち前の明るさとバイタリティで乗り切り、図書館くらぶと相携えて、大館市立中央図書館より建物が4年程古い中津川市立図書館を市民の集う元気な場所にするため、大車輪で活動しています。文教振興事業団奉職以来、大館の希望は女性の元気さにあるとの確信を深めている私ですが、小林さんもまさにそのひとり。図書館員としての蓄積は無きに等しい私ですが、頑張らなくちゃ。

❖ 街歩きの愉しみ

せっかく数日間首都圏に行ったのだからと、いくつか図書館や美術館を訪ねました。東京都北区中央図書館の最寄駅である王子駅は、線路を挟んで桜の名所飛鳥山公

園があり、図書館に向かう川沿の歩道は親水公園になっていて歩くのが楽しくなる街でした。積ん読になっている堀江敏幸の『いつか王子駅で』を読まなくちゃ（田代図書館に所蔵あります）。「ブラタモリ」の影響か、東京横浜の街歩きがとても楽しかったです。強引ですがブラタモといえば、大館市出身の内田青蔵神奈川大学教授が出演していましたね。内田教授の編著書は市立図書館に14冊あります。

横浜・港の見える丘公園にある神奈川近代文学館では「須賀敦子の世界展」開催中。家族や友人に書いた葉書や手紙の筆跡のきれいで温かいこと。市立図書館には著書・訳書が25点所蔵ありです。他に上野の森美術館の「北斎展」（大混雑！）、横浜そごう「トーベ・ヤンソン展」、新宿中村屋「中村屋サロン美術館」など。足が痛くなりました。（陽）